

市立旭丘高等学校の取組【読書に関する教育課程】

1 研究のねらい

本校では、総合的な探究の時間を「Sunrise Time」と呼び、3年間のカリキュラムの中軸として位置づけている。「Sunrise Time」（以下、STと記す）は、「読書活動」、「進路探究学習」、「課題研究」、及びそれらの「発表会」という4つを主な内容として、明確な進学目的をもち、「学びの喜び」を体感することを意図して実施している。読書活動を行う中で、普段、読書習慣の全くない生徒もおり、途方に暮れてしまうことも少なくない。本校では、読書習慣を身に付け、読書の楽しさや大切さを体感するために、「朝の10分間読書」を全員で行っている。そこで、図書局員で話し合い、図書館報GAOMAGAで「朝読書」で読む本が見つからない時、「ST」で欲しい情報が見つからない時は、ぜひ図書館に来てください」とPR活動に力をいれることにした。図書局の活動はカウンター業務が週二回で、館報も分担作業であり、局員同士のコミュニケーションが少ないことから、活動日を増やすことで、局員のつながりを強化し、さらに利用者の増加につなげることをねらいとする。

2 取組内容

(1) 図書局啓蒙活動

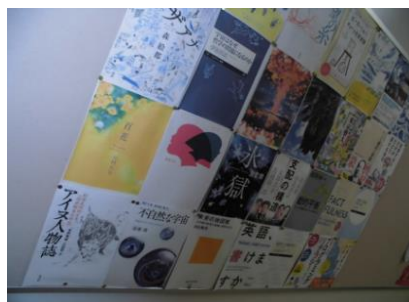
① 図書館報GAOMAGA

今年はGAOMAGAを進化させよう・来年度は館報コンクール入賞！と目標を決める。全員参加で定期的に編集会議をおこなうことにした。昨年度までは、新着本、主に小説の紹介が中心であったが、「ST」の課題研究やゼミ論文を書くための新書コーナーを設け、新書紹介に力を入れる。また、紹介した本については、著作権の許諾をとらなくてはならない。出版社と連絡をとることの大切さも学んだ。四コママンガの掲載も始め、記事の締め切り日は曖昧にせず、責任をもって取り組むことにした。

② 図書館ディスプレイ

カラープリンターを購入することができたので、早速、新着本のタイトルページを廊下に掲示。選書ツアーでセレクトしてきたコーナーも設け、GAOMAGAで特集を組んだ。

例年行っている季節のディスプレイに加え、今年度からは廊下にブラックボードを設置し、歩いている人に興味関心を持ってもらえるように一工夫した。



(2) 図書館交流活動

①旭丘祭

一般公開日には図書館を開館し、局員が作ったおすすめ本のポスター展示、しおり作り体験、読み聞かせを行った。しおり作り体験では、色画用紙にディズニーのシールやカラフルなマスキングテープを使って飾りつけをしてもらい、局員がラミネートをして渡す。作成中に旭丘高校の入試や学校生活のことについての質問に答えるなど、地域の方々とコミュニケーションの場にもなった。新しい取り組み、絵本の読み聞かせコーナーでは、じっくり聞き入ってもらうことが出来た。



②中学生のための学校説明会

中学三年生の皆さんと保護者の方々に、旭丘高校図書館の歴史を説明したり、書庫の見学をしてもらう。希望者には、局員が作った「合格祈願」のしおりを配る。

③全道高等学校図書研究大会

各分科会に参加した局員と話し合う時間を設け、旭丘図書館の在り方を考え、参加しなかった局員への報告をする。館報コンクールは他校の刺激をうけ、活発な編集会議を行っている。



3 成果と課題

(1) 成果（「発信」や「つながりの工夫」含）

GAOMAGAで発信することにより、後期には、朝読書に読む本がない！という声を聞かなくなった。開館時間のインフォメーションや新書のブックリスト作成・レファレンスに力を入れた甲斐があって、「ST」の文献探しに多くの生徒が利用している。

局員は、顔を合わせる機会も多くなり、チームワークが高まってきている。お手伝いという意識から、自分たちがしっかりとつながり、図書館を運営するという意識に変化している。毎日活動する生徒も出てきて、成長がみられる。

(2) 課題

今年度、図書館PR活動のスタートが遅かったので、来年度は早々に行っていきたい。GAOMAGA（新1年次版）作成時には「ST」の特集も設け、オリエンテーションにおいても、新一年生とどのようにつながりを持つべきか考えていきたい。